

赤碕ダイハツ 琴浦モビリティグループ

整備事業者が連携した地域のモビリティ確保に向けた取り組み

ネットワークづくり 経営課題克服

事故や災害時対応でも協力

赤碕ダイハツ（上田啓悟 社長）は2020年7月、鳥

取県琴浦町で営業する自動

車販売・整備事業者5社で

「琴浦モビリティグループ

（コトモビ）」を発足させた。

赤碕ホンダ販売（澤田和広

社長）、くらみつ自動車工業

（倉光暁社長）、ながれ自動

車販売（永禮通暁社長）、な

にわ自動車（浪花孝志社長）

が参加し、1社では対応し

きれない経営課題の克服に

向けたネットワークづくり

している。5社の力を合わ

せることでそうした課題

解決方法を模索している。

コトモビは、「協力」

人口減少と保有台数の減

少が進み、ディーラーや農

業協同組合など大手事業者

が撤退する中、高齢者や女

性を中心とするユーザーの

「難民化」が問題となって

いた。小規模整備事業者に

は、土日営業やレスキュー

対応、車両展示など、ディ

ーラー並みの対応はできな

い。加えて、整備士不足や

働き方改革、整備技術の高

度化など新たな課題も生じ

ている。5社の力を合わ

せることでそうした課題

解決方法を模索している。

コトモビは、「協力」

「共有」「分担」を基本方

針に、定休日を調整し、い

づれかの店が営業している

体制を作った。これにより

各社の休日を増やすことが

でき、ユーザーの利便性向

上と従業員満足向上を両立

することができた。

経費削減効果も大きい。

高価なコンピュータ診断

機や特殊工具は共有するの

をはじめ、毎月発行する

「コトモビチラシ」による

販売促進、中古車の在庫共

有、部品の共同仕入れ、運

輸支局への共同便も運行す

る。また、繁忙時や得意分

野による仕事分担など、ス

ケールメリットを生かして

各社の効率向上につなげて

いる。さらに、事故や災害

時対応でも協力して出動で

きる体制を整えている。

グループ結成後、新規顧

客が増えたほか、地元から

採用できるケースも出てき

たという。「お客さまによ

し「会社によし」「地域によ

し」「従業員によし」の「四方

よしの取り組み」となってい

る。

地方経済において、女性

の社会進出や高齢者の生活

自立などに車は欠かせない。安心して車に乗ることが
できる環境や体制を作ることは、持続可能なまちづくりにつながる取り組みだ。



〈受賞者コメント〉鳥取県琴浦町は公共交通機関が脆弱で、車は必需品です。しかし少子高齢化と共に保有台数が激減し、大手ディーラーの撤退が始まり難民化するユーザーも増えてきました。「高齢者も女性も安心して車を保有できる環境を作りたい」と思いついた「整備ローカルネットワーク」がこの琴浦モビリティグループです。私たちの取り組みが地方の一事例となれば幸いです。